



ダコニール エース

ダコニールエースは株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。

農林水産省登録 第20169号

有効成分:TPN…53.0% (テトラクロロイソフタロニトリル:PRTR・1種)
性状:類白色水和性粘稠懸濁液体
毒性:普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
包装:1ℓ×12本、4ℓ×4缶
有効期限:3年

■適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数
てんさい	褐斑病	750~1000	100~300ℓ/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内
たまねぎ	べと病 黄斑病 灰色腐敗病	750		750~1500	収穫7日前まで		6回以内
	灰色かび病	750~1500	5回以内				
ばれいしょ	疫病	125	25ℓ/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内
	夏疫病	750~1500	100~300ℓ/10a				4回以内
アスパラガス	茎枯病 斑点病	1500	100~400ℓ/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
かぼちゃ	うどんこ病 黒斑病 つる枯病	1500	100~300ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
小麦	縞萎縮病	20~30	80~100ℓ/10a	は種前	1回	全面散布後 土壌混和	1回
にんじん	黒葉枯病	750~1500	750	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内 (種子への吹き付け 処理は1回以内)
	黒斑病	750		5回以内			
すいか メロン	つる枯病	1500	100~300ℓ/10a	収穫3日前まで	5回以内	散布	5回以内
きゅうり	べと病			8回以内	10回以内 (土壌灌注は2回以内、 散布及び常温煙霧及びくん煙及び、 エアゾル剤の噴射は合計8回以内)		
トマト	疫病 葉かび病	1500	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	6回以内 (土壌灌注は2回以内、 散布及び、くん煙及び、 エアゾル剤の噴射は合計4回以内)
ミニトマト				2回以内	2回以内		
せんきゅう	べと病	1000	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ、 1箱当り500ml)	収穫7日前まで	3回以内	土壌灌注	3回以内
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (リゾープス菌)			は種前	1回		2回以内
茶	炭疽病	1500	200~400ℓ/10a	摘採10日前まで	1回	散布	1回

⚠️ 効果・薬害等の注意

- 使用前に容器をよく振ってください。
- 石灰硫黄合剤との混用はさけてください。
- ホセチル剤と混用する場合、必ず本剤を先に所定の濃度に希釈してから加えてください。
- ばれいしょに対して希釈倍数125倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度運動式地上液剤散布装置を使用してください。
- 使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

⚠️ 安全使用上の注意

- 誤飲に注意してください
- 原液は眼に対して強い刺激性があるので、薬液調製時には保護メガネを着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。また薬液も眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 皮ふに付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落してください。
- 夏期高温時の使用をさけてください。



- 使用の際は農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。作業時の衣服等は、他のものと分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけてください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 魚毒性…水産動物(魚類)に強い影響があります。河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。
- 使用した苗は養魚田に移植しないでください。
- 移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください(魚類)。
- 水産動物(甲殻類、藻類)に影響があります。河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。空容器等は水産動物に影響を与えないよう適切に処理してください。

(保管):直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管してください。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 小児の手の届く所には置かないでください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。
- 洗浄水はタンクに入れてください。

この印刷物の記載内容は2020年3月末日現在のものです。

2003T-3000

ダコニール普及会

クミアイ化学工業株式会社 住友化学株式会社

事務局 エス・ディー・エス バイオテック

〒103-0004 東京都中央区東日本橋一丁目1番5号 TEL 03-5825-5522

北海道専用 殺菌剤

ダコニール エース

ダコニールエースは株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。

技術資料



てんさい

褐斑病

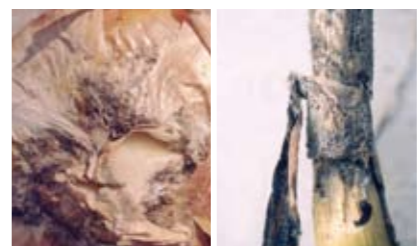
- 葉、葉柄に発生。
- 7月中下旬頃から下葉に直径2~4mmの中央部が淡褐色、周囲が濃褐色の円形病斑が数個現れる。やがて大型病斑となり、葉は枯死する。時に葉柄にも細長い褐色~濃褐色の病斑を形成する。
- 菌密度が高い圃場では早発し、7~8月に高温多湿な年は発生が多い。



たまねぎ

灰色腐敗病

- 茎葉、鱗茎に発生。
- 立毛中から下葉2~3枚目から黄化、軟化してしおれる。地際部から下の球部は赤褐色となり、灰色で粉状のかびを生じ、立枯れる。貯蔵中に発病すると、肩部表面に黒色菌核を生じる。
- 多湿圃場で発生が多く、貯蔵中に腐敗し、大きな被害となる。



白斑葉枯病(灰色かび病)

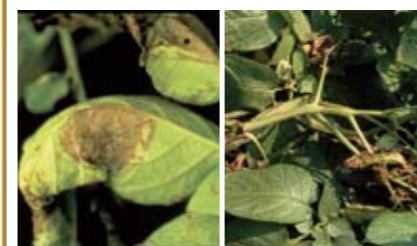
- 茎葉、花梗に発生。
- 葉身に汚白色で紡錘形のややかすれた2mm前後の病斑を生じる。病斑は下位葉で多く形成され、多くは、拡大しない。枯死葉の地上部表面にやや大型の菌核を生じる。
- 降雨が続くと発病が増加する。



ばれいしょ

疫病

- 主に葉に発生。茎、塊茎にも発生。
- 葉に暗褐色の病斑を生じ、その裏面には白い霜状のかびがみられる。雨天が続くと軟化腐敗し、数日で畑一面にまん延することもある。
- 15℃以上で降雨が多いと多発し、特に開花期以降に発生が増加する。



夏疫病

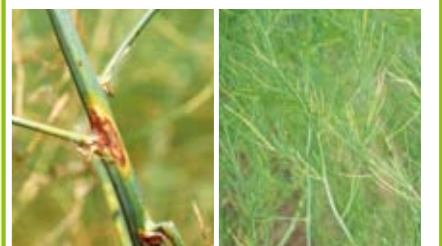
- 主に葉に発生。茎にも発生。
- 下葉に黒褐色の病斑を生じ、同心円状の輪紋を形成する。病斑上には黒いかびをつくる。病斑の周囲は狭い退緑部がみられる。
- 高温多湿時や生育が進むにつれ発生しやすくなる。



アスパラガス

斑点病

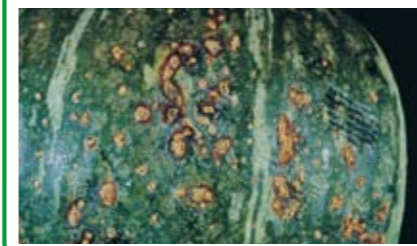
- 葉、茎、苞、果実に発生。
- 円形、楕円~紡錘形の病斑を生じ、その中心部は黄色~灰色、周縁部赤褐色の2~6×3~12mmほどの病斑を生じる。外縁は退色し黄色を帯び、病斑が拡大し、茎葉を取り囲むと病斑より上部は枯死して落葉する。
- 茎葉が繁茂し、風通しが悪く、降雨が続くと多発し、8月中旬頃から増加する。



かぼちゃ

つる枯病

- 主に葉、茎、果柄、果実に発生。新芽や花蕾にも発生。
- 葉に1~2cmの淡黄褐色、円形の病斑を生じ、茎や果柄では病斑部が灰白色に退色、表面は乾固する。
- 生育期から収穫期に降雨があると発病が多く、収穫後に多湿条件で貯蔵すると、果実の発病を助長する。



うどんこ病

- 主に葉に発生。葉柄、茎にも発生。
- 初めうどん粉をふりかけたような白斑を生じその後拡大、円形病斑となる。病勢が進むと枯死する。
- 湿度が低く乾燥条件で多発する。直接雨の当たらない施設栽培で被害が大きくなる。



小麦

縞萎縮病

- 株全体が黄化、萎縮。
- 早春から新葉に退緑したかすり状の斑点や褐色のえそ斑が葉や葉鞘に多数現れ、病斑は次第に拡大、融合する。分けつが減り草丈が低くなり、下葉が黄変、葉先から淡褐色となり枯死する。
- 土壌中のポリミキサ菌により媒介されるウイルス病。かびであるポリミキサ菌の感染により発病する。



*出典元:©全国農村教育協会



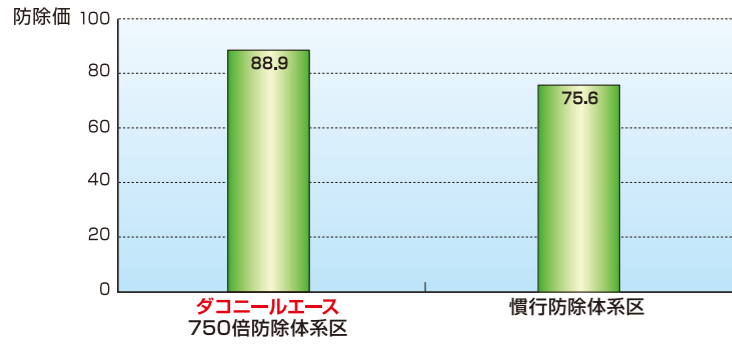
褐斑病委託試験の結果一覧

試験年度	試験機関	希釈倍率(倍)	発病程度	防除価
2015	北植防(有明)	750	甚(接種)	70
2015	北植防(有明)	1000	甚(接種)	72
2016	北植防(日甜)	750	多	46
2016	北植防(日甜)	1000	多	34
2016	北植防(有明)	750	多(接種)	73
2016	北植防(有明)	1000	多(接種)	55
2016	北海道中央農試	750	多(接種)	70
2017	北植防(有明)	1000	中(接種)	75

- 2015～2017年に実施された委託試験の全データです。
- 750～1000倍希釈した薬剤を散布した試験です。
- 散布による葉害の発生は、認められませんでした。

安定した効果を示します。

褐斑病に対する体系防除試験の結果



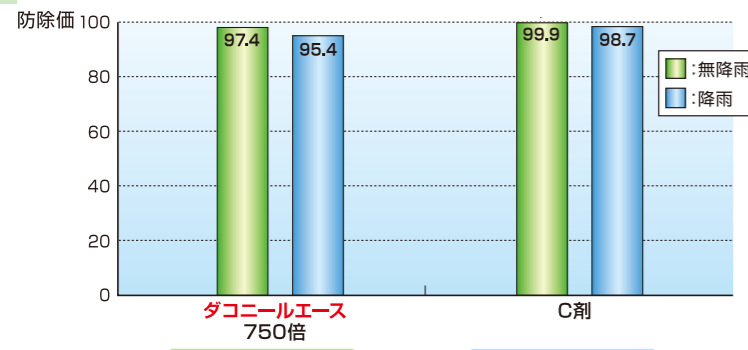
試験場所:クミアイ化学工業株式会社札幌支店/試験圃場/北見市
 品 種:ライオン 露地栽培(直播)
 発生状況:中発生(8月上旬初発)
 区制・面積:1区14.5m²(2.88m×5.05m) 2連制
 試験方法および調査方法:
 2017年7月14日、27日、8月10日、24日に所定濃度の供試薬剤に展着剤(グラミンS 5000倍)を加用し、下記スケジュールで散布。
 9月7日に成葉の発病程度を調査し、1区当り40株の発病度および防除価を算出。

体系防除でも効果を示します。

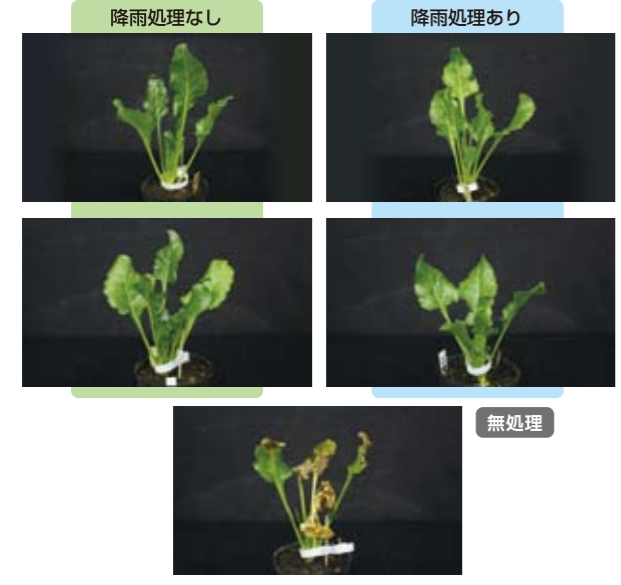
各区の散布状況

試験区	散布日			
	7月14日	7月27日	8月10日	8月24日
ダコニールエース750倍防除体系区	A剤	ダコニールエース(750倍)	A剤	ダコニールエース(750倍)
慣行防除体系区		B剤		B剤
無処理区	無処理			

褐斑病に対する効果と耐雨性

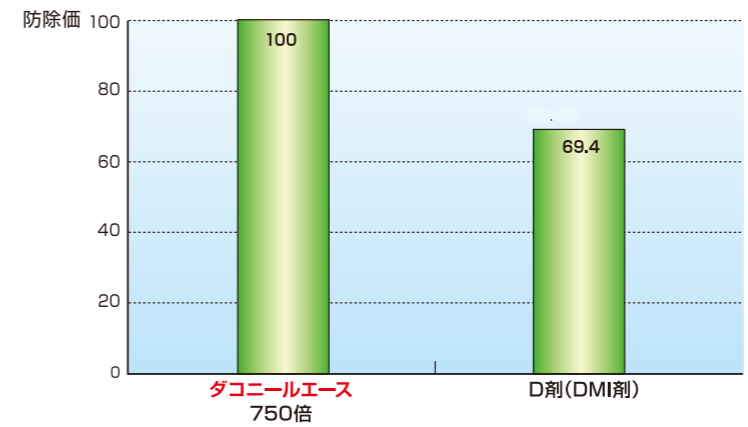


試験場所:(株)エス・ディー・エス バイオテック つくば研究所(茨城県)
 品 種:パピリカ ポット栽培
 発生状況:甚発生(接種 ※1)
 区 制:1区3苗
 試験方法および調査方法:
 2019年2月13日に所定濃度の供試薬剤を苗に散布。2月14日に人工降雨装置を用いて40mm/hrの降雨処理を1時間施した。2月15日に病原菌の孢子懸濁液を葉表に均一に噴霧接種し、20℃湿度100%下で2日間保持した。3月11日(接種24日後)に各苗の第1～5外葉の発病面積率を調査し、1区当り3苗の平均発病面積率および防除価を算出。
 ※1)供試病原菌:Cercospora beticola(DMI感受性株)



他剤と同等の耐雨性があります。

DMI耐性菌に対する効果

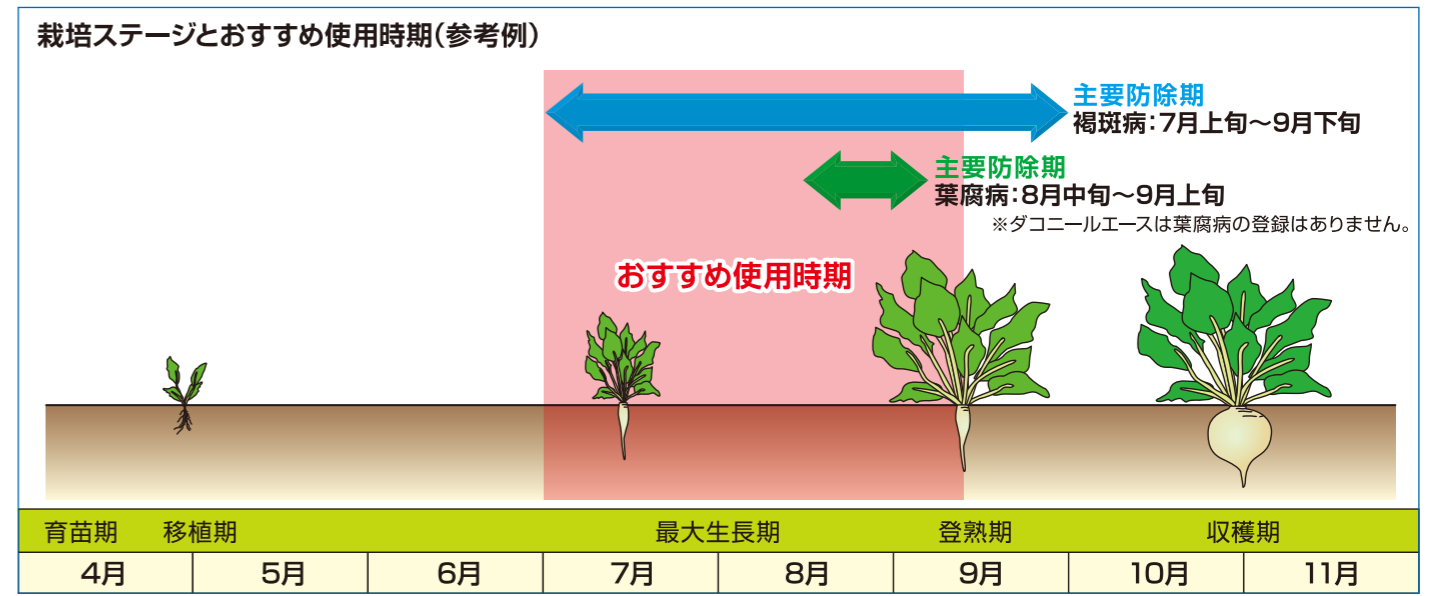


試験場所:(株)エス・ディー・エス バイオテック つくば研究所(茨城県)
 品 種:アンジー ポット栽培
 発生状況:少発生(接種 ※1)
 区 制:1区3苗
 試験方法および調査方法:
 2019年2月13日に所定濃度の供試薬剤を苗に散布。2月15日に病原菌の孢子懸濁液を葉表に均一に噴霧接種し、25℃湿度100%下で2日間保持した。3月22日(接種35日後)に各苗の第1～5外葉の発病面積率を調査し、1区当り3苗の平均発病面積率および防除価を算出。
 ※1)供試病原菌:Cercospora beticola(DMI耐性菌)



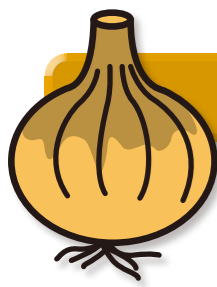
DMI耐性菌にも効果があります。

使用推奨時期



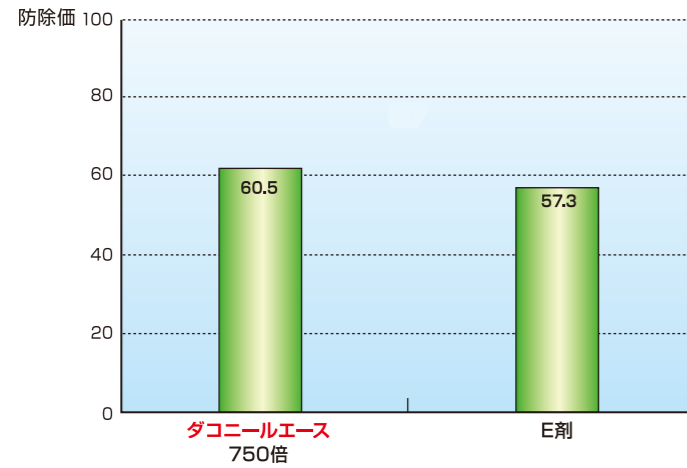
上手な使い方

- 効果を最大限に発揮させる為に発病前・初発直後の予防散布を徹底してください。
- 連作・短期輪作圃場では発病が早い傾向があるので防除を早めに開始してください。
- 高温多雨で発病が多くなる為、気象条件に注意し予防散布してください。
- 前作の発病葉・茎を圃場に残さないでください。



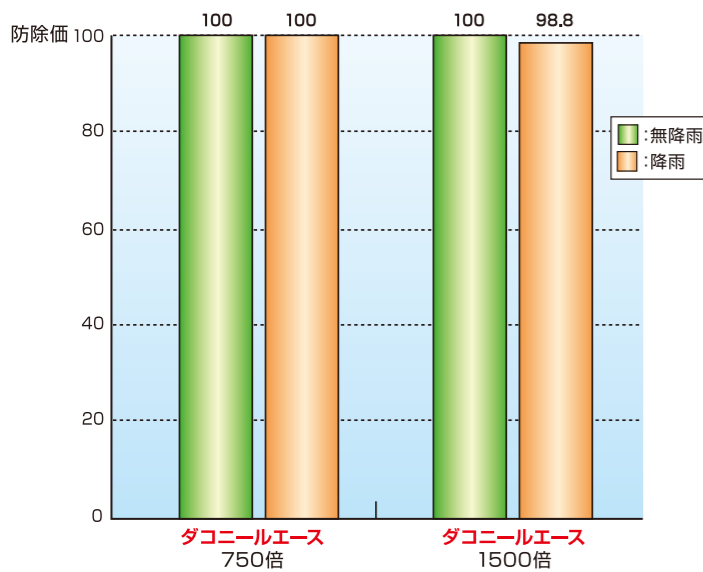
たまねぎ

白斑葉枯病(灰色かび病)に対する効果



試験場所:北海道立総合研究機構 北見農業試験場
 品 種:スーパー北もみじ 露地栽培
 発生状況:少発生(7月6日初発)
 区制・面積:1区12m²(2.4m×5m) 3連制
 試験方法および調査方法:
 1999年6月29日、7月8日、15日、22日、29日、8月5日に所定濃度の供試薬剤に展着剤(グラミンS 3333倍)を加用し、10a当り120ℓを散布。8月17日に各区5枚の展開葉について発病程度を調査し、1区当り25株の発病度および防除値を算出。

白斑葉枯病(灰色かび病)に対する残効性及び耐雨性試験



試験場所:(株)エス・ディー・エス バイオテック つくば研究所(茨城県)
 品 種:不明(白斑葉枯病感受性品種) ポット栽培
 区 制:1区6株
 試験方法および調査方法:
 2000年6月7日に所定濃度の供試薬剤に展着剤(アブローチBI 1000倍)を加用し、苗に散布。6月8日に人工降雨装置を用いて50mm/hrの降雨処理を2時間施した。6月9日に病原菌(*Botrytis squamosa*)の分生子、菌糸懸濁液を十分量噴霧接種し、20℃湿度100%下で3日間保持した。6月12日(接種3日後)に各苗の5葉中に認められる病斑を調査し、1区当り6苗の発病度および防除値を算出。

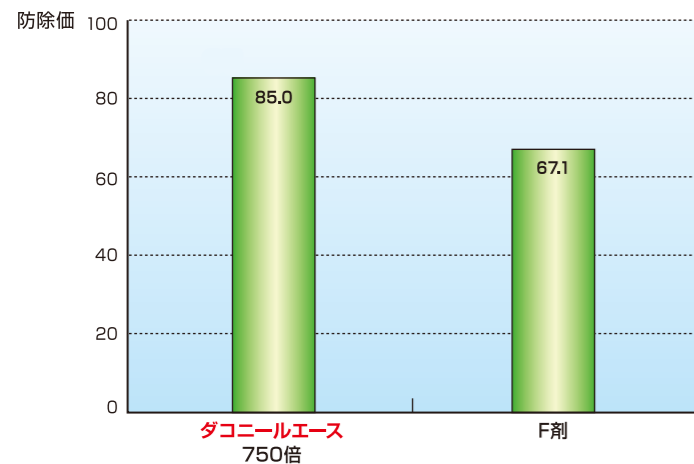
試験概要

薬剤散布⇒翌日降雨処理⇒翌日病原菌接種

散布翌日の激しい降雨処理でも安定した効果を発揮します。



灰色腐敗病に対する効果



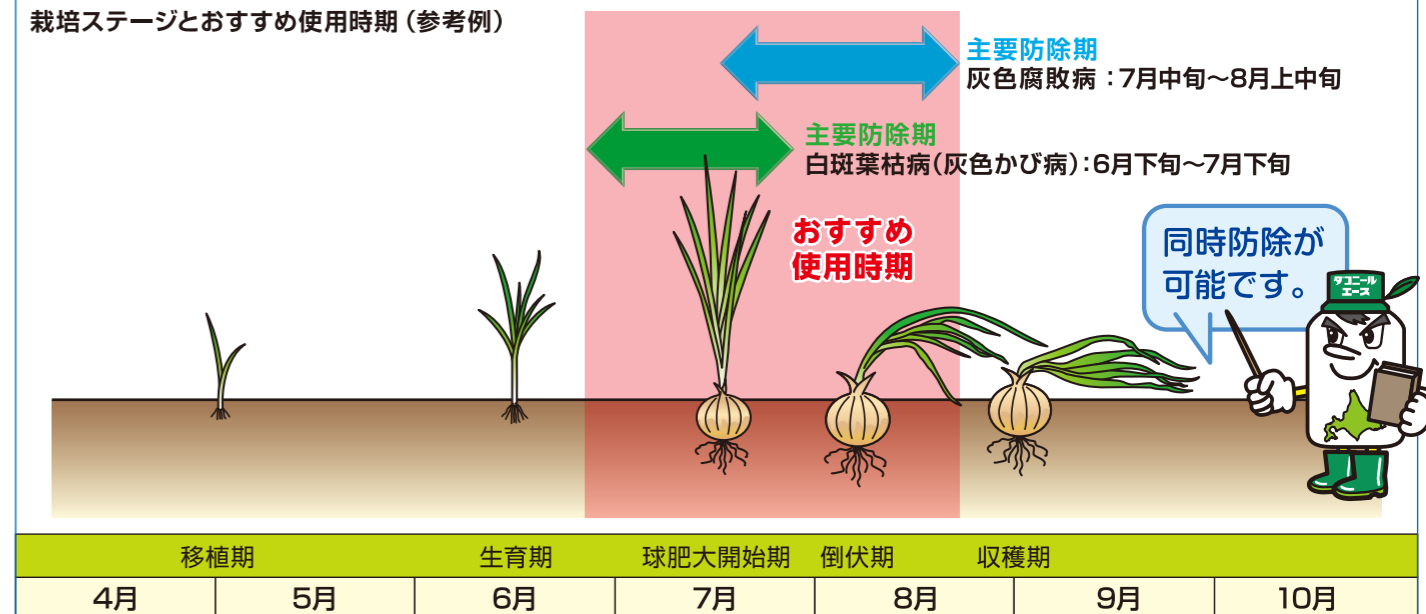
試験場所:(社)北海道植物防疫協会
 品 種:北もみじ2000 露地栽培
 発生状況:多発生(接種 ※1)
 区制・面積:1区3.6m²(1.2m×3m) 3連制
 試験方法および調査方法:
 2016年7月20日、26日、8月2日、9日に所定濃度の供試薬剤に展着剤(グラミンS 3000倍)を加用し、10a当り120ℓを散布。9月7日に収穫、11月20日までビニールハウスで乾燥し、同日貯蔵庫へ搬入。2月23日に各区87~106球を縦断して発病の有無を調査し、発病球率および防除値を算出。
 ※1)2016年7月26日(2回目散布8時間後)および8月2日(3回目散布約8時間後)に病原菌の分生子懸濁液をほ場全面に噴霧接種した。
 供試病原菌:*Botrytis allii*

灰色腐敗病に対しても高い防除効果を示します。



使用推奨時期

栽培ステージとおすすめ使用時期(参考例)



上手な使い方

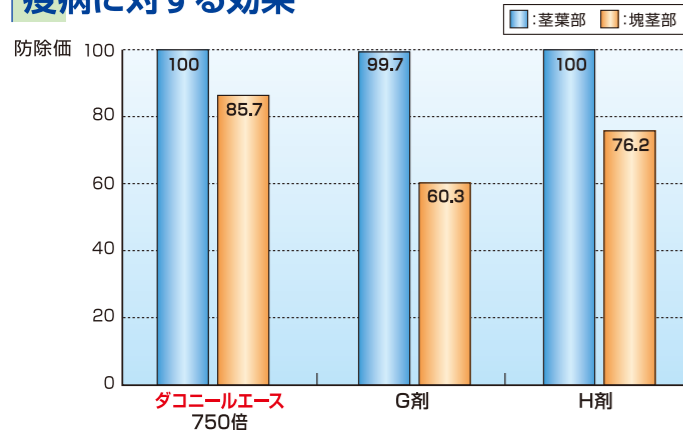
- 発病前・初発直後の予防散布を行ってください。
- 球の肥大に影響する茎葉伸長期から予防散布を行ってください。
- 曇雨天が続く場合、7日~10日間隔で予防散布を行ってください。
- 圃場の排水にも注意し、状況に応じてローテーション散布を行ってください。

薬剤が植物体を満遍なくカバー



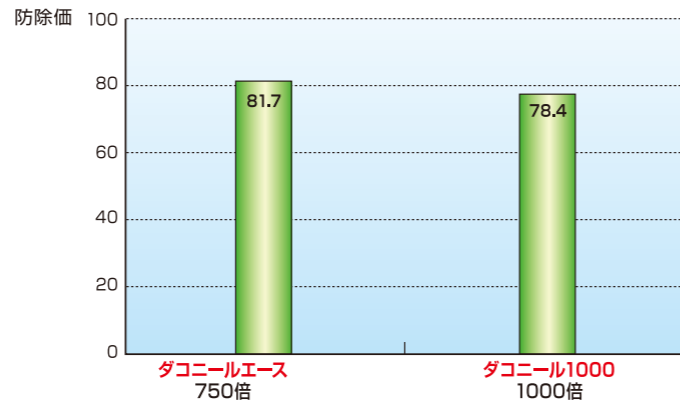
ばれいしょ

疫病に対する効果



試験場所:北海道立総合研究機構 北見農業試験場
 品種:男爵薯 露地栽培
 発生状況:多発生(7月18日初発)
 区制・面積:1区16.56m²(3.6m×4.6m) 3連制
 試験方法および調査方法:
 1999年7月16日、24日、31日に所定濃度の供試薬剤に展着剤(グラミンS 10000倍)を加用し、10a当り150ℓを散布。8月2日に茎葉部の発病程度を調査し、1区当り25株の発病度および防除価を算出。8月11日に1区10株を掘取り、腐敗いも数を調査し、腐敗いも率および防除価を算出。

夏疫病に対する効果



試験場所:北海道立総合研究機構 北見農業試験場
 品種:男爵薯 露地栽培
 発生状況:甚発生(接種 ※1)
 区制・面積:区14.6m²(3.4m×4.3m) 3連制
 試験方法および調査方法:
 2000年7月10日、17日、24日に所定濃度の供試薬剤に展着剤(グラミンS 10000倍)を加用し、10a当り150ℓを散布。8月1日に1区当り25株の発病度および防除価を算出。
 ※1)2000年7月11日に孢子懸濁液を各区中央の畝に10a当り30ℓ散布。

枯凋剤の効果を阻害しない!!

2003年 SDS自社試験

試験薬剤散布⇒試験薬剤散布⇒枯凋剤散布



ダコニールエース + 枯凋剤 750倍



I剤 + 枯凋剤



枯凋剤のみ



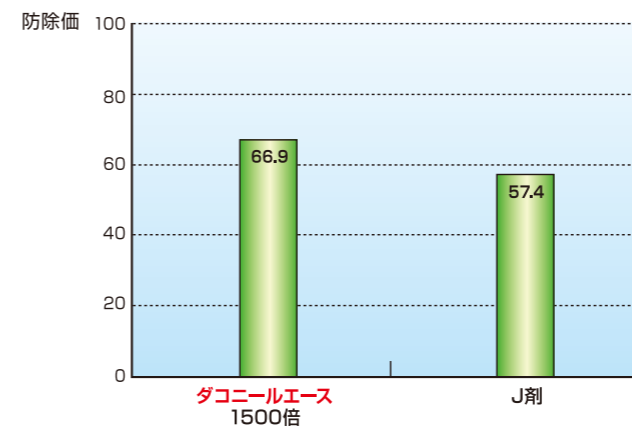
夏疫病との同時防除が可能です。

狙い通りの時期にしっかり枯凋させることは、収穫物の品質安定につながります。



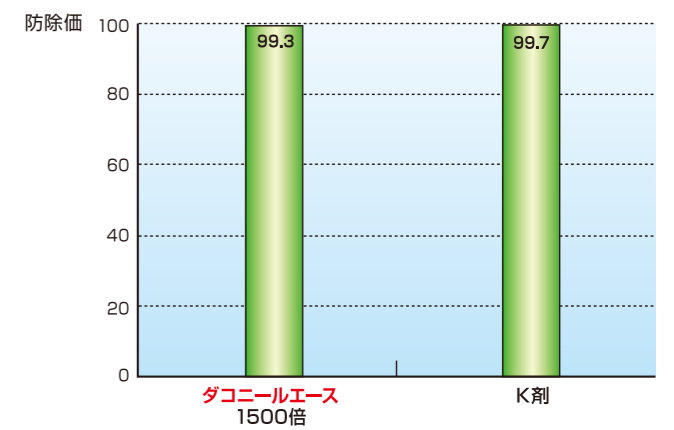
かぼちゃ

つる枯病に対する効果



試験場所:北海道立総合研究機構 中央農業試験場
 品種:くりゆたか 露地栽培
 発生状況:中発生(接種 ※1)
 区制・面積:1区33.6m²(11.2m×3.0m) 3連制
 試験方法および調査方法:
 2015年7月28日、8月4日、10日に所定濃度の供試薬剤に展着剤(グラミンS 10000倍)を加用し、10a当り160~200ℓを散布。9月5日に収穫し、ビニールハウス内でブルーシートで被覆し保存。11月4日に発病果率を調査し、1区当り14株の発病度および防除価を算出。
 ※1)2015年7月12日にベット端から約10cm離れた位置に乾燥させた罹病果実片をすじ状にばらまいた。

うどんこ病に対する効果



試験場所:(株)エス・ディー・エス バイオテック みのり農事試験場(茨城県)
 品種:えびす 露地栽培
 発生状況:甚発生
 区制・面積:1区38.4m²(6.0m×6.4m) 3連制
 試験方法および調査方法:
 2012年6月13日、21日、28日に所定濃度の供試薬剤を10a当り160~200ℓ散布。7月5日に各区16主枝について、第13本葉より上位の10葉(1区合計160葉)の発病程度を調査し、1区当り8株の発病度および防除価を算出。

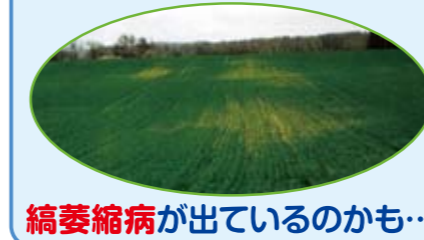
うどんこ病、つる枯病の同時防除が可能です。葉が繁茂している時期は葉裏までしっかり散布することが重要です。



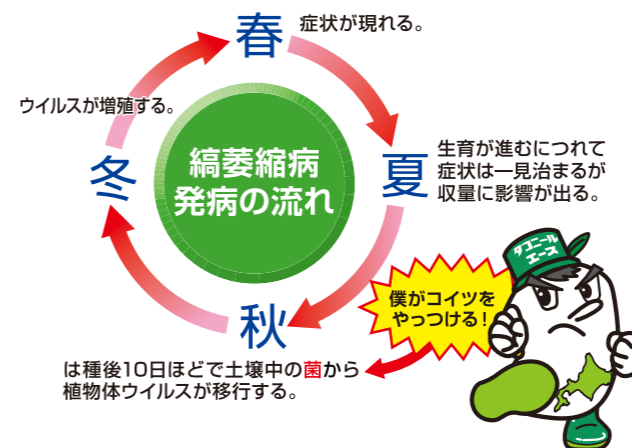
小麦

小麦縮萎縮病に対する使用方法

5月頃こんな圃場ありませんか?



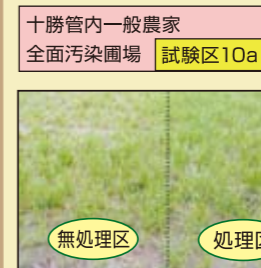
縮萎縮病が出ているのかも...



上手な使い方

2011年 試験(自社試験)

2011年9月27日:は種前全面散布後土壌混和処理(20倍、100ℓ/10a)
 2011年9月29日:は種
 2012年5月11日:調査① 下写真参照



分けつ密度に差が見られた

前作で発生する場所をチェックしておけば、スポット散布でコスト&労力の低減も可能です。



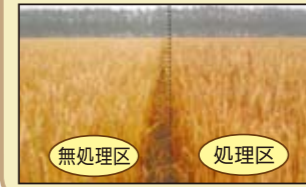
散布の様子



収量調査結果

	総収量	製品率 ¹⁾	製品俵数	千粒重量 ²⁾
試験区	780kg/10a	89.3%	11.6俵	40.3g
慣行区	743kg/10a	81.4%	10.1俵	38.9g

1) 2.2mmのふるいにかき、ふるい上に残ったものを規格内製品とした。
 2) t検定を行ったところ5%水準で有意な差が認められた。



無処理区 処理区

アスパラガス

斑点病に対する使用方法

月	5月			6月			7月			8月			9月			10月			
	旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
斑点病発生消長																			
生育ステージ	普通栽培	露地栽培 収穫期						株養成期											
立茎栽培	春芽収穫期						立茎	立茎栽培			夏芽収穫期								
防除時期	春芽の出来は、収穫後の秋にかかっている!!						ダコニールエース	適宜防除			ダコニールエース	適宜防除			ダコニールエース				

上手な使い方

- 防除は早め開始し、後半までしっかり防除してください。
- 効果の高い薬剤を10日間隔で散布してください。
- 防除の際は、展着剤を加用してください。
- 多発時および降雨後は、防除間隔を短くしてください。

葉の繁茂具合にあわせ散布水量を調節し、全体に薬剤が届くよう散布してください。

